

## 6. 大型クラゲ出現調査事業

北原茂

近年、日本海沿岸でエチゼンクラゲの大量出現が頻発しており、定置網、底びき網等の網漁業において操業の遅延、漁獲物の鮮度低下、網の破損等の被害が見られている。長崎県沿岸域においても夏季～秋季にエチゼンクラゲが大量に来遊し、同様の被害が報告されている。そのため、一般社団法人漁業情報サービスセンターの委託により、大型クラゲの分布状況等を把握し、的確な大型クラゲ出現状況に関する情報を漁業者へ提供することを目的として陸上調査、洋上調査を行った。

### I. 陸上調査

各水産業普及指導センターと協力して、漁業協同組合等の関係機関から聞き取り調査を実施した。

#### 方法

平成29年6月～平成30年3月までの約9ヶ月間、各水産業普及指導センターが聞き取った大型クラゲの出現状況を漁業情報サービスセンター及び長崎県水産部漁港漁場課に報告した。

#### 結果

平成29年度における県内沿岸域での大型クラゲ出現状況は、7月5日に初めて対馬市美津島町高浜及び壱

岐市郷ノ浦町渡良牧崎の定置網で各1個体（傘径50 cm, 70 cm）の大型クラゲが確認された。

その後7月下旬頃まで、壱岐、対馬で1～2個体の大型クラゲ（傘径30～60 cm）の入網が確認されたが、8月以降の入網は確認されなかった。

平成29年度の県内沿岸域での大型クラゲ出現状況は、平成28年度と比較して少なかった。

### II. 洋上調査

調査船及びセスナ機を用いて大型クラゲの目視調査を実施し、調査結果を漁業情報サービスセンター及び長崎県水産部漁港漁場課に報告した。

#### 方法

調査船により7月31日～8月2日にかけて壱岐・対馬周辺海域の目視調査を実施した。また、セスナ機により3回（7月28日、8月25日、9月25日）、壱岐・対馬周辺海域の目視調査を実施した。

#### 結果

調査船及びセスナ機による目視調査では、全ての調査で大型クラゲは確認されなかった。

（担当：北原）